

東急グループ リテール事業の連携を強化 百貨店・スーパーマーケット融合のグロッサリー売場新業態を開始します 青葉台東急スクエア内 食料品フロア「レ・シ・ピ青葉台」に11月9日(金)OPEN

東京急行電鉄株式会社
株式会社東急百貨店
株式会社東急ストア
株式会社東急モールズデベロップメント

株式会社東急百貨店(以下、東急百貨店)および株式会社東急ストア(以下、東急ストア)は、11月9日(金)から、商品構成・価格設定・陳列などすべての商品販売戦略[マーチャндаイジング(以下、MD)]について、共同でのマーケティングなどで連携するグロッサリー(食料品雑貨)売場の新業態(以下、本業態)の展開を開始します。

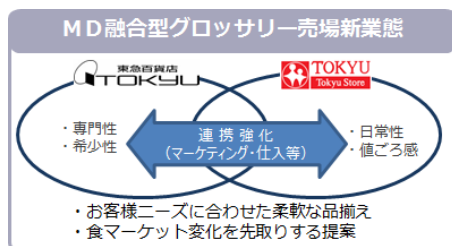
本業態は、百貨店業態ならではの専門性・希少性の高いこだわり商品と、スーパーマーケット業態の幅広い品揃えと値ごろ感のある商品を、地域特性やお客さまニーズに合わせて柔軟に組み合わせるMD融合型新業態です。百貨店、スーパーマーケットの両業態を持つ東急グループの強みを生かした展開であり、東京急行電鉄株式会社の中期3か年経営計画における重点施策の1つ、「リテール事業の再構築(グループ各社のリテール事業の強み・リソースの連携推進による競争力向上)」の一環として進めるものです。

本業態導入1店舗目は、東急百貨店が運営する食料品フロア「レ・シ・ピ青葉台」内のグロッサリー売場とし、従来の専門性・希少性の高い商材に加え、トレンドや、お客さまのライフスタイル多様化とともに高まった「日常使い」「健康志向」「個食・簡便商品」といった幅広いニーズにも対応し、ワンストップのお買いもの実現する売場に生まれ変わります。

なお、「レ・シ・ピ青葉台」は、株式会社東急モールズデベロップメントが運営する商業施設「青葉台東急スクエア」に出店しており、今般のグロッサリー売場の新業態展開と合わせて、11月9日(金)に、「青葉台東急フードショー」としてリニューアルします。(※1)

東急線の主要駅の1つで、幅広い世代の方のご利用がある田園都市線青葉台駅における、本業態での柔軟なMD展開は、将来的な沿線の食マーケット変化を先取り提案する重要な試金石と位置づけています。今後も、東急百貨店、東急ストア両社の強みを生かした連携を推進し、既存店への導入や新たな展開も検討し、お客さまニーズによりマッチしたグロッサリー売場のご提供を進めます。

本リリースの詳細は別紙のとおりです。



▲新業態イメージ図



▲融合売場イメージパース

以上

※1 「レ・シ・ピ青葉台」のリニューアル詳細については、株式会社東急百貨店のリリース(2018年10月5日付)もあわせてご覧ください。

(参考)本日、この資料は国土交通記者会、東商記者クラブ、横浜経済記者クラブ、流通報道記者会にお届けしています。

本リリースに関するお問い合わせ先

東京急行電鉄株式会社 社長室 広報部 広報企画課 報道担当

電話:03-3477-6086

株式会社東急百貨店 経営統括室 秘書広報部

電話:03-3477-3103

株式会社東急ストア 社長室 秘書・広報

電話:03-3714-2317

株式会社東急モールズデベロップメント 広報部

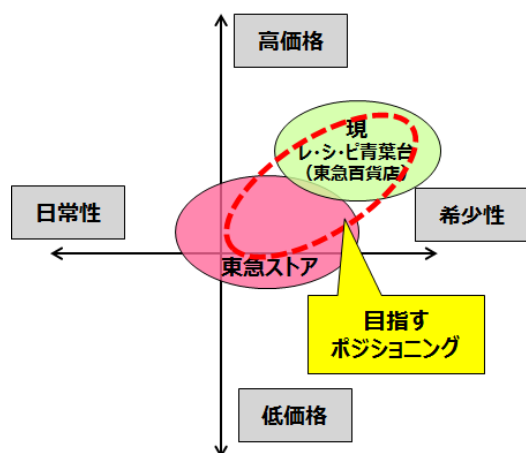
電話:03-3477-6708

【別紙】

■グロッサリー売場新業態の概要

従来の専門性・希少性の高い商材の取り揃えに加え、日常性が高く値ごろ感のある東急ストアMDを組み合わせることで、幅広いお客さまのニーズを取り込むグロッサリー売場を実現する。

【目指すポジショニングのイメージ図】



MD変更のポイント

- ① 品揃え
 - ・新商品やトレンドを捉えた品揃えの拡充。
 - ・トレンドを切り口とした特長コーナーの導入。(美容健康ドリンクなど)
- ② 価格
 - ・ナショナルブランドを中心に、値ごろ感のある商品を拡充。
 - ・東急ストアを含む関東私鉄系スーパーのプライベートブランド(Vマークバリュープラス)の導入

※青葉台東急スクエア内「レ・シ・ピ青葉台」概要

所在地 : 横浜市青葉区青葉台2-1-1 青葉台東急スクエア South-1 本館地下1階
 運営会社 : 株式会社東急百貨店

各事業概況 (2017年度決算期時点)	東急百貨店	東急ストア
	2017年度売上高	約1,834億円
店舗数	15店舗	82店舗

(参考)

■中期3か年経営計画 重点施策「リテール事業の再構築」

業態集約・構造改革の推進、横串機能の強化による効率性・収益性向上に取り組むとともに、鉄道・不動産事業などとのさらなる連携により沿線価値向上、沿線人口の増加に寄与する。



以上